

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

JA施肥マスター 14人を認定
(広島県本部)

2面

**若手職員育成へ
耕種部門連携研修会**
(耕種総合対策部・耕種資材部・米穀部・麦類農産部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://x.gd/G3W90>

News!



JA施肥マスター 14人を認定

土壌分析、施肥設計など営農指導員に期待

広島県本部

JA施肥マスターに認定された営農指導員



「JA施肥マスター」は、広島県本部独自の資格です。科学的な手法を用いた専門的な営農指導ができる人材の育成と地域の産地振興をけん引する指導者の育成を目的としています。

新たにJA施肥マスターに認定されたJA広島市の小田祐司さんは「私が担当する地区には、小規模農家が多く、土壌診断の機会がない生産者が多くいます。そのため、高品質・高収量の作物を育てるために、土壌分析を提案するなど、学んだ技術を今後の営農指導に生かしていきたいと考えています」と力を込めて話しました。

広島県本部の安藤重孝県本部長は「JA施肥マスターの活動は近年の肥料価格高騰に対する『施肥コスト抑制』につながる営農指導として大きく貢献している。環境調和型の広島県農業の生産振興に向けて活躍してもらいたい」と話しました。

広島県本部は2月12日、JA施肥マスター認定証授与式を行い、新たに14人を認定しました。土壌分析結果の活用や処方箋を用いた施肥指導、作物の施肥設計などに関する専門的な研修を受け、試験に合格したJAの営農指導員が認定されました。

News!



若手職員育成へ耕種部門連携研修会

中山間地での水田農業を実地と座学で学ぶ

耕種総合対策部・耕種資材部・米穀部・麦類農産部



耕種部門連携研修会の参加者

全農は、若手職員育成のため耕種総合対策部・耕種資材部・米穀部・麦類農産部の4部門が主催する「水田農業に関する耕種部門連携研修会」を、2022年度から開催しています。今年度は2月5日に埼玉県JAちちぶ管内の農事組合法人大田営農（以下、大田営農）を訪問し、実地と座学の研修を行いました。

秩父市の実地研修では、大田営農が使用している農機具・農薬などに関する説明を受けて、圃場を視察し

ました。座学研修では、大田営農の富田幸夫組合長が中山間地の営農に関する課題について講演し、参加者同士で対応策を検討するグループワークを実施しました。

参加者からは、「実際の圃場で組合長の説明を聞き、水田で米・麦・大豆を輪作する体系がよく理解できた」「他部門の職員と課題に対して意見を交わし、視点の違いで発想や知識を学ぶことができ、勉強になった」といった声が聞かれました。

今後も耕種部門では、生産・販売に係る幅広い知識の習得と、生産現場と担い手が全農に求めるニーズの把握を通じて、施策を提案できる職員の育成を目指します。

News!

『JA全農さんと考えた 地味弁』発売

料理家21人のレシピ76品、見た目よりもおいしさ重視

米穀部



全農は、2019年から「地味だけおいしい」お弁当(地味弁)のアイデアを、特設サイト【地味弁・com】で公開しています。

書籍では、【地味弁・com】で紹介しているレシピのほか、おいしいご飯の炊き方、白いご飯がとまらない「作りおきごはんの友」のレシピも収録されており、お米がさらにおいしく食べられる1冊となっています。



◀特設サイト
【地味弁.com】
はこちら

全農が監修した書籍『TJMOOK JA全農さんと考えた地味弁』が2月25日、(株)宝島社から発売されました。21人の料理家による、見た目よりもおいしさを重視し、無理せず楽しめる「地味弁」レシピ76品を掲載しています。

News!

「大豆の日」でキャンペーン

100名様に国産大豆商品の詰め合わせプレゼント

麦類農産部



国産大豆商品の詰め合わせ

国産大豆の消費拡大を目的として公式X「全農広報部 食農応援」(@shokukikuzenoh)でのキャンペーンを展開し、期間中の応募者数は1万3376件に上りました。

応募者の中から抽選で100名様に国産大豆商品の詰め合わせ(2000円分相当)を贈呈。全農は、今後もキャンペーンなどを通じて、消費者に国産大豆と大豆食品を訴求するとともに生産者の国産大豆生産を応援していきます。

全農は、2月3日の大豆の日にちなんで1月30日から2月16日までの期間、SNSを活用した「国産大豆商品プレゼントキャンペーン」を実施し、当選者に国産大豆商品の詰め合わせを贈呈しました。

News!

農産物直売所が陳列に創意工夫

52店舗が参加、最優秀賞は「三鷹緑化センター」

くらし支援部



最優秀賞店舗「三鷹緑化センター(JA東京むさし)」の陳列

最優秀賞には、JA独自のオリジナルキャラクターや音声POPなどを活用した陳列が華やかで魅力的だった「三鷹緑化センター」(JA東京むさし)が選ばれました。

優秀賞には、「十王物産センター 鶉喜鶉喜」(茨城・JA常陸)、「道の駅常陸大宮くわ布拉ザ」(JA常陸)、「小平ファーマーズマーケット」(JA東京むさし)、「FUKUYAMAふくふく市」(広島・JA福山市)が選ばれました。全農は、今後も農産物直売所の活性化に向けた取り組みを進めます。

全農は「令和6年度農産物直売所創意工夫陳列キャンペーン」を開催しました。全国から11都県52店舗が参加し、「エコーコープ回鍋肉の素」と農畜産物を組み合わせた創意工夫に満ちた陳列が集まりました。



学生の中に農業界と広く関わる機会を創出



生産者の下で農作業を体験

全国の学生と共に日本の農業を盛り上げる 「学生団体いろり」尾崎陽花代表に聞く(下)

～農業界の台風の目になる～

「学生団体いろり」(以下いろり)は、「全国の学生と共に日本の農業を盛り上げる」という理念のもと農業に関心を持つ学生たちをつなぐ活動を行っています。コロナ禍を経て2023年に再開した活動を、今後どのように成長・発展させていくのか。いろりの現代表でお茶の水女子大学3年の尾崎陽花さんにお話を聞きました(2回掲載)。
【広報・調査部】

農業への関わり方 イベントで学ぶ

Q: 「学生団体いろり」の活動について教えてください。

A: 現在、大学も学部も違う7人のメンバーで活動するいろりは、「食が好き」「農業が好き」という共通点でつながっています。これまで、就農だけではない農業への関わり方を知ることが目的に、農業界の方をゲストにお呼びしてお話を聞いたり、実際に生産者の下で農作業をしながら現場を学んだりするイベントの企画・運営を行ってきました。イベントを通じて運営側であるメンバー自身が学び取ることも大切にしています。

Q: 尾崎さんから見て、農業界はどのような印象ですか？

A: 食料安全保障や農業従事者の減少・高齢化、環境問題など、課題はたくさんあるかもしれませんが、その分可能性も非常に強く感じています。課題を乗り越えるための新しい取り組みが生まれていくこと、それに自分に関われることにとてもワクワクしています。

横のつながりから 縦のつながりへ

Q: 今後の尾崎さんといろりの展望を教えてください。

A: イベント「農業の10年後を考える。」を毎年継続して開催し、その年ごとに学生たちが本気で考えた「10年後の農業」が、実際にどのように変化していくのかを見届けるとともに、次の世代がまた次の10年後を

考える…そんな流れを生み出せたらと思っています。

また、今後はイベントで行った議論や学生の思い、活動などを広く発信していきたいと考えています。さらに新たな試みとして、農業に興味のある学生が、生産者や企業の方々との共同プロジェクトを通して、食、環境、地域、ビジネスなど多様な切り口で実際に農業界に関われる仕組みを作っていきたいと考えています。

「農業を盛り上げる」ために学生の時にできることは、自分たち自身が農業を盛り上げられる存在になることだと考えており、そのためには自分が農業のどの部分に興味があって、どのように関わりたいのかを見つける必要があります。

いろりは、2012年の設立からこれまで、農業に思いを持つ学生の横のつながりを作り続けてきました。それが時を経て縦のつながりとなり、農学を専攻していない人や農学を専攻していても分野外には触れる機会がない人もいろりに加わることで、学生が幅広く農業界に関わる機会を作ることができています。

私たちは何も持っていない、強いて言うなら勢いだけはあるただの学生ですが、学生だからこそチャレンジさせていただける環境に感謝し、これからも挑戦し続けていく団体でありたいです。



緑肥で地球に優しい米作り

加工品開発、食農教育にも一役

JAあかしは兵庫県明石市の一部を管轄とし、五つの支店、三つの農産物直売所、一つのJA全農Aコープ(株)との共同運営店舗を展開しています。都市化が進む明石市で人と自然、さらに農業と地域社会の共存を大切にしたい総合事業の運営を目指しています。

ブランド米「花美人」 温室効果ガス削減三つ星

「ヘアリーベッチを使ったブランド米を作りたい」。それが「花美人」誕生のきっかけでした。ヘアリーベッチとは、マメ科の一年草で土に混ぜることで緑肥になります。「花美人」の生産を担うのは、

江井島地区にある東江井地区営農組合と西江井地区営農組合の生産者21人で、栽培面積は合わせて約13㌫です。

「花美人」の特徴は、その栽培方法です。ヘアリーベッチを裁断して土に混ぜることで、化学肥料をほとんど使わず水稲栽培が可能となります。従来の稲作と比較して温室効果ガスの排出量を半分以上に抑え、削減率55%(10㌫当たり)を達成。農林水産省の「温室効果ガス削減見える化実証」で最大評価の★三つを獲得しました。

使用農薬量にも制限があり経費も抑えられることから、生産者は「花美人」のことを「ロー・コスト・ライス」と呼ぶこともあるなど、生産者、お米を食べる人、そして

JAあかし (兵庫県)



概要	2024年3月31日現在
正組合員数	1354人
准組合員数	9255人
職員数	90人
販売品取扱高	1億2千万円
購買品取扱高	8千万円
貯金残高	1873億7千万円
長期共済保有高	1113億6千万円
主な農畜産物	米、野菜

地球にも優しいお米です。 米の「魅力」伝えて 出前講座、給食、米粉も

「花美人」を販売する中で課題として、「花美人の「魅力」が伝わっていないこと」がありました。そこで今年度は、行政・教育機関と連携した食農教育と加工品の商品開発に取り組みました。

食農教育では、子どもたちに食と農への関心を高めてもらうため小学校5校と保育園14園で出前講座を実施し、保護者へのPRも実施しました。さらに、市内学校給食で年3回実施された「有機・地産地消給食の日」での「花美人」の提供や、地元の高校生が開発した「花美人」の米粉を使った「塩フィ



緑肥作物のヘアリーベッチ



「ロー・コスト・ライス」とも呼ばれる「花美人」



(右) 食農教育の一環として地元学校で出前講座
(左) 地元高校生が開発した「塩フィナンシェ」



ナンシエ」を明石サービスエリアで販売することで、明石市から魅力的な農産物を広く発信する取り組みも行っています。

令和6年度 全農の主な取り組み 「第3回」

事業部ごとに主な取り組みを紹介しします(全3回)。

総合エネルギー部

「JAでんき」を普及・拡大
「電力の地産地消」も目指す

総合エネルギー部では、今後の脱炭素社会に向けて再生可能エネルギーを含めた「電力事業」に力を入れています。

「JAでんき」は、組合員のご家庭や営農施設、JAグループ施設向けに供給しており、令和7年2月時点で契約件数は約8万8000件と多くの方に利用いただいています。

また、群馬県をモデル地区として、地域の太陽光で発電した電力の余剰を地域内で消費する「地域内エネルギー循環」を開始。このサービスにより、「経済性と環境性を両立させた電力の地産地消」の拡大を目指します。

地域内エネルギー循環型ビジネスモデル
(目指す世界観)



再生可能エネルギーの普及・拡大とともに持続可能な地域社会の実現に向けた取り組みを進め、組合員サービスの充実に努めます。

くらし支援部

快適で継続的な住環境づくり
シロアリ薬剤販売事業を拡大

全農では、昭和55年ごろから全国のJAやパートナー企業でもあるシロアリ防除事業者と連携し、「組合員の快適で継続的な住環境づくり」を目的に組合員とその財産を守る重要な事業として、シロアリ防除に取り

組んでいます。

令和5年からは、くらし支援部でシロアリ防除成分として最高レベルの伝播効果(II防除性能)を有し、人畜および環境に対する安全性が高い成分である「メタミサルト」(全農が権利を有する)を有効成分とするシロアリ防除剤「デンパSC」や「ネクサスZ800」の販売を開始しました。

パートナー企業でもあるシロアリ防除業者やJAと連携して、組合員宅での使用を推進しており、従来の防除事業の管理に加えて、実際に散布する防除剤も安心して利用できる環境整備と販売拡大に努めています。



メタミサルトの特徴を紹介するチラシ

フードマーケット事業部

JAタウン・飲食事業を通じて
国産農畜産物の消費拡大・PR

フードマーケット事業部は、消費者と直接接点を持つ「JAタウン」や「飲食店舗」事業を通じた国産農畜産物の消費拡大やPR強化の取り組みをすすめています。

JAタウンでは、JAグループ直営の産地直送通販サイトとして、取扱商品の拡充やSNS・テレビCMなどを活用した認知拡大施策を展開。また、自然災害で被害を受けた農畜産物などを「食べて応援」することで生産者と産地を応援する企画を積極的に実施しています。

飲食店舗では、店舗を国産農畜産物の消費拡大・PR拠点と位置付け、新規出店をすすめており、令和6年度末現在で46店舗を展開。各産地のブランド農畜産物を使用したメニューの提供とSNSやメディアを通じた産地やブランド農畜産物の紹介・PRなどの情報発信に取り組んでいます。



JAタウンで実施した「食べて応援」企画



昨年10月に開業した「和牛焼肉岡山そだち」

福島県産桃果汁で 白桃にごり酒を発売

「ニッポンエール」×「大関」コラボで第3弾商品

全農は、大関株(以下、大関)と連携し、福島県産あかつき桃の果汁を使用した「ニッポンエール白桃にごり酒」を共同開発しました。福島県に本社を置くヨークベニマルで3月3日に発売します。

【営業開発部】

「ニッポンエール白桃にごり酒」は、大関のフルーツにごり酒シリーズとのコラボレーション企画第3弾商品です。福島県が誇る特産品目である「あかつき桃」の果汁を6%使用し、「あかつき桃」の特長である甘みと香りをお楽しみいただけます。また、国産米100%由来のにごり酒のうま味を感じることができる商品です。

全農と大関は、今後も特徴ある国産果実を使用した商品開発を進めていきます。



ニッポンエール 白桃にごり酒



11店舗で「華やかな、春のはじまり。苺フェア」

全国の9産地から人気ブランドイチゴそろい踏み

全農は全国の直営飲食店舗(11店舗)で、イチゴ主産県情報交換会とのコラボレーション企画「華やかな、春のはじまり。苺フェア」を3月7日から開催しています。

【フードマーケット事業部】

今年で5年目を迎えるフェアでは、全国9産地(宮城、茨城、栃木、静岡、愛知、福岡、佐賀、長崎、熊本県)が誇る11品種のブランドイチゴを店舗ごとに趣向を凝らしたスイーツやドリンクメニューで提供します。



1.みのりカフェ三越銀座店(写真左)

- ①いちごのフルーツサンド 750円(税込み)
- ②いちごのミルクラテ(アイス・ホット) 720円(税込み)
- ③米粉のシフォンケーキいちごソース添え 500円(税込み)

2.みのりカフェ長崎駅店(写真右)

長崎県産いちごパフェ 1,969円(税込み)



実施店舗11店舗

①みのりダイニング

札幌ステラプレイス店
(提供品種: 栃木県産とちあいか)

②みのりカフェエスパル

仙台店
(提供品種: 宮城県産もういっこ)

③グレルみのりエスパル

仙台店
(提供品種: 宮城県産にこにこベリー)

④みのりカフェ銀座三越店

(提供品種: 静岡県産紅はつぺ、熊本県産ゆうべに)

⑤みのり食堂銀座三越店

(提供品種: 茨城県産いばらキッス、栃木県産とちあいか)

⑥みのりダイニング

名古屋店
(提供品種: 愛知県産愛さかり)

⑦みのり食堂エキエ広島店

(提供品種: 佐賀県産いちごさん)

⑧みのりカフェミュプラザ

博多店
(提供品種: 福岡県産博多あまおう)

⑨みのりカフェ季楽

コムボックス佐賀駅前店
(提供品種: 佐賀県産いちごさん)

⑩みのり食堂アミュプラザ

くまもと店
(提供品種: 熊本県産恋みのり・ゆうべに)

⑪みのりカフェ長崎駅店

(提供品種: 長崎県産ゆめのか)

JA全農の産地直送通販サイト

JAタウン ショップ紹介

ニッポンエールショップ

ニッポンエールは、「日本全国47都道府県から届けられる日本産のたべものに、そしてにっぽんに、ここからエールをおくろう。」をコンセプトに誕生したブランドです。

こちらの商品は、国産果汁パウダーを使用したフルーツチョコレートを染み込ませた、さっぱり食感のラスク仕立てバームクーヘンです。一口サイズで食べやすく、紅茶やコーヒーとの相性も抜群です。

フレーバーは福岡県産あまおう^{いちご}、長野県産シャインマスカット、愛媛県産紅まどんなの3種類。専用ギフトボックスでお届けしますので、自分へのご褒美やギフトにもお薦めです。



ラスク仕立てのバームクーヘン(3種×2個)
(ポスト投函)・・・1940円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☑ shop@ja-town1.com

